



3年学年だより

令和4年6月8日(水) 第5号

小松市立安宅中学校3年学年通信

修学旅行を終えて

5月17日～19日にかけて、京都、広島、そして大阪での修学旅行がありました。修学旅行レポートも先月末に完成し、実際に行ってみて、場所立って、直に話を聞いて分かったことなどを仲間と共に振り返ることで、絆がより強くなったかなと思います。中間テストや確認テストも終えた今、3年生としての夏の大会やコンクールに向けて毎日頑張ってますね。今月の終わりは早くも1学期の期末テストになります。あっという間に時間は過ぎますが一つひとつのことを大切にして進めていきましょう。

ここでは、訪れたその日に記入し、提出した報告文からいくつか紹介したいと思います。



～京都学習(5/17)を振り返って～ 1組編

日本独自の文化を見る旅

僕達は嵐山竹林、伏見稲荷大社、京都タワーに行きました。嵐山竹林では自然の豊かさがすごく、安宅では感じられない雰囲気でもとても新鮮でした。また、嵐山の商店街も活気にあふれ、人気スポットだなと思いました。伏見稲荷大社は、たくさんの観光客であふれ、有名な千本鳥居も大きさはそこまででもないですが数がとても多く圧巻でした。鳥居が多くとても日本的な場所だと感じました。京都タワーはとても高い展望台で京都一面が見渡せました。他にもマスコットキャラクターがいてこちらでも観光客が多くにぎわっていました。ぱっと見ではただの街でもよく見てみるとおもしろいものがみえてやっぱりすごいなと思いました。今日の京都学習で日本独自の文化をタクシーの運転手さんと一緒に歩いたのでとてもよい旅になりました。



みんなと一緒にまわって良い思い出になった

京都の景観は本当にきれいで時々屋根がレンガになっているところもあった。二条城や金閣は木や岩の形にも気をつけていた。(金閣寺は光を反射したのも計算されていてすごかった。)二条城は大政奉還の場面も再現されて感動した。とにかく運転手さんの解説が楽しく、安宅や石川の歴史もよく知っていた。清水寺では「名探偵コナン」の蘭と新一が訪れたところもあった。下を見たら足のすくむような高さだった。そこから飛び降りた人が270人ほどいたそう。それは死ぬためではなくお釈迦様の膝元でまた生きるためだと知りなんか深いなと思った。清水坂では八つ橋はもちろん昔からの老舗もあり、通りそのものに趣があった。衝撃的だったのは金閣寺のあの金色できれいな建物は「本物の金閣寺」ではなかったことだ。あれは「金閣寺」という所のシンボルマークの役割だそう。 (本物の金閣寺はその横にある平屋) みんなと一緒にまわって良い思い出になった。



～今日の平和学習(5/18)を振り返って～ 1組編

平和に生きて居られることに感謝

原爆ドームや原爆投下後の広島を見て、当時の広島の人々はとても辛かったのだと思った。そしてもう二度とこのような戦争を起こしたくないし、起こってほしくないと思った。笠岡貞江さんの話を聞いて、今、自分達が平和に生きられることを感謝し生きていきたいと思った。今起きているウクライナとロシアの戦争でもうこれ以上誰かを傷つけてほしくないし、誰も死んでほしくないと思った。碑巡りをして、無念に亡くなった人々の想いが込められていると思った。今日のことを忘れずに覚えておこうと思った。

今日の体験を後世に伝えていく

僕は、今日の平和学習で、やはり戦争は恐ろしいもので二度とあってはならないものだと思います。原子爆弾はあの大きさと14万人以上の命を奪って、その後も広島の人たちに大きな被害をもたらしたと思うと落としたアメリカもどのくらい被害が出るか分かっていなかったのだろうなと思いました。その後の碑巡りでいろんな人々がそこに慰霊されており、原爆がもたらした被害はやっぱり大きいのだと思いました。僕はこの資料館で見たこと、笠岡さんの話で聞いたことを忘れないようにして、自分たちの代で戦争が起こらないように、自分ができることは何でもやっ行ってこうと思いました。今日の体験を後世に伝えていくということを僕たちでやっ行ってこうと思いました。

平和になるように僕たちも努力していきたい

今日は広島で平和学習として、笠岡さんの被爆体験のお話、平和記念資料館、碑巡り、平和集会をしました。笠岡さんの話で、改めて原爆の恐ろしさがわかりました。熱線や放射線という言葉も怖いなと思いました。笠岡さんの言葉で一番心に残ったのは、「中学生くらいの子の夢や希望、未来を原爆は一発で一瞬にして奪った」という言葉です。この世界が平和になるように僕たちも努力していきたいと思いました。平和記念資料館では戦争の悲惨さというものがよくわかりました。特に印象に残っているのは背中への火傷の跡です。こんなことがおきないようにしてほしいと思いました。碑巡りでは原爆慰霊碑、韓国の人の墓、平和の鐘、子どもの墓、平和の灯火、呉服店の地下室を訪れました。印象的だったのは地下室です。生き残った野村さんは偶然の偶然で助かったのだからすごいなと思いました。平和集会では歌を歌いました。一般の人や他校の人もいたけどただ戦争、核がなくなってほしいという思いで歌いました。一日も早く平和な世の中になってほしいと思いました。

想像するだけで辛くなる

被爆した方の姿を見て、私は人間があのように赤く、皮膚がたれると思っていなかったのが驚きました。水を求めて川へ歩く人、想像するだけで胸が痛くなります。体調が悪くても、やるべきことがある。とてもきつい生活だったと思います。被爆された方一人一人のことを考え、噴水を置いたり、名前を書いたりすごく工夫がしてあると思いました。被爆された方も今このように怖さや大変さ、苦しみを後世に伝えているため、幸せなのではないでしょうか。私たちも周りの人に伝えるべきだと思。いました。ロシアとウクライナの戦争で同じようにならないように願っています。

広島に来てみて改めてわかった

学校で学んだときよりも、もっと目で見て、聞いて、伝わりました。講演会では笠岡さんの話を聞いて原爆が生み出したものがどれだけひどいものかを改めて知ることができました。資料館では遺品や写真を見てひどい兵器なのだなと思いました。他にも投下されるまでの過程や原爆の仕組みを見ました。さらに昨年安宅に来てくださった座間味さん達もいらして僕らの班のガイドをしてくださいました。一番心に残った碑は誰の骨が入っているのかわからない碑です。亡くなった14万人のうち7万人の骨が入っていて原爆の強さを改めて知りました。でも最近誰の骨かが分かり、遺族に渡された例もあると聞きました。平和集会では折り鶴を捧げて、歌を歌って来ました。今日学んだことは家に帰ったら後輩や家族に伝えていきたいと思いました。